科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　6 月　1 日現在

機関番号：14501
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2009 年度～2011 年度
課題番号：21730412
研究課題名（和文）ゴッフマン理論の基盤研究と応用可能性
——現代社会における戦略的相互行為の分析
研究課題名（英文） Analysis on Goffman’s Theory:
Strategic Interaction Analysis in Contemporary Society
研究代表者
速水奈名子（HAYAMI　NANAKO）
神戸大学・大学院人文学研究科・学術推進研究員
研究者番号：70467645

研究成果の概要（和文）：
本研究の目的は、1）ゴッフマン理論研究者であるイヴ・ヴァンカン教授（エコール・ノルマル・シューペリウール文学・人文科学校、以下 ENS LSH と表記する）所有のアーカイブス調査研究を継続的に行うことを通じて、ゴッフマン理論の総合的・基盤的研究を進めること、そして２）ENS LSH とリヨン第二大学との共同研究チーム「相互行為・身体・学習そして表象」に参加することを通じて、ゴッフマンの相互行為論を理論的フレームワークとした経験調査である「日常的相互行為におけるイメージコンサルタントの介入——日仏比較研究」を進めること、以上の二点にある。これら二つの研究を総合的にまとめた著作（単著）の出版には、未だ至っていないが、以下に示すように、論文として学術雑誌や著作（共著）として部分的にまとめつつある段階にある。

研究成果の概要（英文）：
The proposes of this research are: 1) starting the archives research on Goffman constructed by Prof. Yves Winkin and located in Ecole normale superieure, Lyon (ENS LSH) and 2) conducting the comparative empirical research on ‘analysis on everyday interaction manipulated by image consultants’ between Japan and France, employing Goffman’s theoretical framework sophisticatedly reconstructed for adjusting it a research of contemporary society by the co-organized research group by ENS LSH and University of Lyon II, ‘interactions, corpuses, learning and representations’. We have not published a book covering all the research result we mentioned above but achieved some thesis on theoretical and empirical analysis until now.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,200,000	360,000	1,560,000
２０１０年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
総　計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：社会学理・相互行為論・身体論

１．研究開始当初の背景

これまで日本におけるゴッフマン研究

は、彼が携わった多彩なテーマや領域ごとに、各々の研究者が自らの関心に即して個々の主題を取り上げ、その一部を切り取る形で進められる傾向があった。報告者（速水）も、こうした一般的研究背景から出発したが、より総合的で、現代的なゴッフマン理解の視点を模索し、博士論文「ゴッフマン理論の基礎構造と現代的展開――身体社会学との関連を中心に」(2007 年 3 月神戸大学)においては、ゴッフマン理論における、デュルケム・パーソンズ・ジンメル・ミードをはじめとした古典社会学理論からの影響、および現象学的社会学やエスノメソドロジーといった現代社会学理論との関係性の検討を中心に進め、同理論を総合的に分析した。さらにここでは、現代社会における若者の身体イメージへの過剰な関心と、それに伴う現実の組織化および自己形成のあり方について、同理論を応用することを通じて分析した。

また報告者は博士論文執筆後、2008 年 9 月に ENS LSH よりポスドク研究員として採用され、同機関におけるイヴ・ヴァンカン教授の指導のもと、ゴッフマン理論の基盤的研究を進めるための活動に携わった。同教授は、ゴッフマン理論の総合的理解に関心をもつ数少ない研究者であり、ゴッフマンの伝記の作成および理論解釈を、未公刊資料の解読だけにとどまらず、ゴッフマンと直接関わりのあった研究者へのインタビュー等を行うことを通じて遂行した人物である。上述したように、日本におけるゴッフマン理論の総合的な分析は、世界的にみて未だ積極的に進められていない。これまで報告者はそのような状況を打開すべく、海外現地に赴き、特定の図書館に所蔵されたゴッフマン関連の未公刊資料を検討すること(2004 年シカゴ大学レーゲンシュタイン・ライブラリー内のスペシャル・コレクション調査、2007 年ペンシルバニア大学デモグラフィック・ライブラリーにおけるゴッフマン・アーカイブス調査)や、海外研究者と討議を行うこと、さらには国際学会に参加することなど、できる限りの活動を行いゴッフマン理論研究の促進に努めてきた。しかし、このような活動を通じても入手出来る資料や情報には限界がり、ゴッフマン理論の知的背景などを全体的に網羅することは困難であった。そのため報告者は 2008 年に ENS LSH のポスドク研究員に申請し、ヴァンカン教授との接触、および同教授が制作・保持するアーカイブスの調査を行うことを試みた。約一ヶ月間の研究滞在期間中に、アーカイブス調査や、同機関に設置された相互行為分析の研究チーム「相相互行為・身体・学習そして表象 interactions, corpuses, learning and representations」（研究代表者：ロレンツア・モンダダ　リヨン第二大学教授）のワークショップ等に参加し（この研究チームについては後に詳述)、ゴッフマン理論のルーツをこれまで以上により深いレベルで考察すること、および現代社会における相互行為論の新たな展開を学ぶことが可能になった。

２．研究の目的

本研究の目的は、ゴッフマン理論の総合的・基盤的分析を促進することにあるが、特にここでの目標は、大きく、同理論の内在的研究（理論研究）と同理論の応用可能性の検討（経験的調査研究）の二点に集約することができる。前者にお

いて、特にわれわれが関心を持つテーマは、ゴッフマン理論におけるゲーム理論受容、および戦略的行為論展開の意義である。そのために再度、ヴァンカン教授所有のゴッフマン・アーカイブスの調査に従事する必要がある。報告者が 2008 年 9 月に ENS LSH に滞在した際には、同アーカイブスの収納資料のリスト作成、ゴッフマンによる未公刊資料の読解・複写、そして同教授によるゴッフマンおよびゴッフマンの同僚へのインタビュー記録の分析・複写等を通じて、彼が晩年に展開した会話分析の理論的フレームワークについて考察を深めた。今回の研究では、ゴッフマンが中期に、ゲーム理論をふまえて展開した戦略的行為論の理論的フレームワークを詳細に分析していくことが目指される。

また経験的調査研究においては、同理論の応用可能性について検討していく。当初、本調査「日常的相互行為におけるイメージコンサルタントの介入」を、ENS LSH 内に組織された ENS LSH／リヨン第二大学との共同研究チーム「相互行為・身体・学習そして表象」に参加することを通じて進めていくことを計画していたが、21 年度の渡仏後、フランスにおけるフィールドワークを遂行することには、時間、予算の関係上限界があると判断し、「相互行為・身体・学習そして表象」との共同研究をオンライン上で行いつつも、調査地を台湾に移し（シャオ・シンファ教授・国立台湾大学）、女性の身体統制に関わるに日台比較を行うことに変更した。

これらの方法を用いて、ゴッフマン理論の内在的研究を深めること、またその応用可能性を検討すること、および、相互行為論の国際比較を展開していくことが、本研究の目的である。

３．研究の方法

上述した本研究目的を達成するための具体的な研究方法は以下の二点に集約される。

(1)ゴッフマン理論の総合的・基盤的研をさらに進めていくために、ENS LSH に長期滞在することを通じて、イヴ・ヴァンカン教授が制作・所有するアーカイブスの再調査を行うこと。
(2) ENS LSH に設置された ENS LSH／リオン第二大学との共同研究チームである「相互行為・身体・学習そして表象」に参加することを通じて、申請者が現在進行中のゴッフマン理論の応用可能性を検討した経験調査である「日常的相互行為におけるイメージコンサルタントの介入」を、日本と台湾を調査地として行っていくこと。

以下では、これら二点の研究計画と具体的な方法の詳細を記述していく。

(1)
研究を遂行するための具体的な方法は、再度 ENS LSH におけるヴァンカン教授所有のゴッフマンアーカイブスの調査に従事することにある。同アーカイブスには以下のような資料が所蔵されている。①ゴッフマンの未公刊資料（学会・研究会などに提出された論文等）、②ヴァンカン教授自身によるゴッフマンへのインタビュー記録、③ヴァンカン教授自身によるゴッフマンと同時代の研究者（研究仲間）へのインタビュー記録、④ゴッフマンと同時代の研究者間で交わされた手紙、⑤ヴァンカン教授を含む海外研究者のゴッフマン研究論文、⑥ゴッ

フマンが行ったフィールドワークのヴァンカン教授による再調査の記録、以上である。申請者は、08 年 9 月の ENS LSH での滞在期間中に、上述の諸資料の検討・複写を行ったが、一ヶ月の滞在期間では、リストの作成を三分の二までしか進めることができなかった。またインタビュー記録の検討、分析についても約半分しか行えていない。本研究が可能になれば、前回の調査で未完成に終わった作業を完了させ、ゴッフマン理論の総合的・基盤的研究を日本語で進めていくことができるだろう。特に前回の滞在期間中に総合的に収集することができなかった、ゴッフマンのハーバード大学国際問題研究所での滞在記録（1966-67）、およびその年代にゴッフマンによって進められたフィールドワークの記録（カジノの賭博場でのフィールドワークの記録）の検討・複写を進めたい。これらの資料は、ゴッフマンがゲーム理論の受容を基調に展開した「戦略的相互行為論」の理解、解釈を進める上で重要なものである。ゴッフマン社会学における同理論の分析はいまだ日本において十分に進められていないために、アーカイブスにおける情報を整理・分析していくことには、大きな意義があると思われる。また、これらの新たな情報の分析のほかにも、アーカイブスにある資料を再検討することを通じて、申請者自らのゴッフマン理論解釈、および理解を深めていくことが目指される。

(2)

理論研究と同時に、ゴッフマン理論をはじめとした相互行為論に基づいた経験的比較調査である「日常的相互行為におけるイメージコンサルタントの介入」を、国立台湾大学を拠点に、ENS LSH／リヨン第二大学との共同研究チーム「相互行為・身体・学習そして表象」とのセッションを通じて進めていく。本研究では、日本／台湾両国における女性の相互行為分析に焦点を当てた経験的調査を実施する。

I.社会制度調査

①イメージコンサルタントの組織・活動内容の調査

②イメージコンサルタントの受容に関する調査

II.意識調査

①イメージコンサルタントへのインタビュー調査

②イメージコンサルタントのクライアントへのインタビュー調査

③イメージコンサルタントの活動に対する一般の人々へのインタビュー／アンケートによる世代別調査

III.表出調査[ビデオ調査]

一般の人々の日常生活における表出活動の調査

IV.比較調査

I から III までの日本、台湾における各調査結果および収集データを比較検討し、共通点、相違点をそれぞれ提示することから、日台社会における「戦略的相互行為」の普遍的／個別的性向を明確にする

４．研究成果

平成 21 年度は、4 月から 6 月にかけて、日本（東京）を拠点に女性の身体統制に関わる調査研究を進め、同時に関西社会学会をはじめとした各学会に参加した。7 月には、神戸大学において開催された、香港大学・神戸大学合同コロキウムにおいて、女性の身体統制に関する調査報告を行った。9 月には、女性の身体統制に関する比較調

査を行うために台湾（国立台湾大学）に渡航した。滞在中、イメージコンサルタントにたいしてインタビュー調査を実施した。10 月には、日本社会学会をはじめとした各学会に参加した。11 月には ENS LSH イヴ・ヴァンカン教授所有のゴッフマン・アーカイブスの調査に従事した。滞在中、同教授とのゴッフマン理論に関するディスカッションを進めると同時に、ゴッフマンが中期にゲーム理論を踏まえて展開した、戦略的行為論の理論的フレームワークを詳細に分析した。具体的には、ゴッフマンのハーバード大学国際問題研究所においての滞在記録、およびその際にゴッフマンによって進められたフィールドワークの記録や、ヴァンカン教授が 1997 年から 98 年にかけてペンシルバニア大学客員教授として滞在した際に収集したゴッフマン・アーカイブスの記録、および同僚へのインタビューの記録等である。また、フランス滞在中には、ENS LSH とリヨン第二大学のメンバーによって構成された研究チーム「相互行為・身体・学習そして表象」に接触し、相互行為論に関するワークショップに参加する機会を得た。（平成 22 年）1 月には、女性の身体統制に関する比較調査を続行するために、再度台湾（国立台湾大学）に渡航した。滞在中、台湾における一般女性にアンケート調査を実施した。2 月から 3 月にかけては、リヨン高等師範大学での研究成果をまとめること、及び女性の身体統制に関する一連の調査をまとめることに従事した。

平成 22 年度は、4 月から 8 月にかけて、日本（東京）を拠点に女性の身体統制に関わる調査研究を進め、同時に関西社会学会をはじめとした各学会に参加した。9 月には、女性の身体統制に関する比較調査を本格的に行うために台湾（国立台湾大学）に渡航した。10 月には、フランスに渡航し、ENS LSH ヴァンカン教授のもとで、アーカイブス調査に従事した。この度の渡航を通じて、アーカイブスにおける未公刊資料を検討するとともに、同教授とのセッションを通じた、現代社会における女性の身体統制を分析するための理論的フレームワークを構築することに従事した。11 月には再度台湾に渡り、国立台湾大学において女性の身体統制に関する学会報告を行った。また、日本社会学会においては、ゴッフマン理論とエスノメソドロジーの関係性に関わる報告を行った。（平成 23 年）1 月には、香港大学において、女性の身体統制に関する学会報告を行い、東アジアにおける同研究の比較検討を行うことが可能になった。また 2 月には、大阪府立大学において開催された第 3 回社会構築主義の再構築プロジェクト研究会（略称 RSC 研）に参加し、アーカイブス調査を踏まえたゴッフマン理論とガーフィンケルの関係性についての研究報告を行った。

平成 23 年は、女性の身体統制に関わる調査研究を洗練させつつ、継続していくこと、そしてそれらのデータを分析するための理論構築を行うことに従事してきた。また、同年度は本科研費受給最終年度ということもあり、今後も研究を継続していくために必要であると思われる、国際的な研究者ネットワークを形成することにも尽力した。

その活動の一環として、5 月には、浙江大学において、日本文化研究者の王勇教授のもとを訪問し、同氏が企画したワークショップに参加することなどを通じて、東アジア社会における社会規範と身体統制の関係について考察を深めた。9 月には、女性の身体統制に関する比較調

査を行うために台湾（国立台湾大学）に渡航した。本渡航期間中に、インタビュー調査と文献収集を行うことが可能になった。また、国立台湾大学におけるジェンダー研究所を訪問し、国際的な研究者ネットワークを構築することにも努めた。11 月には、韓国ヨンセイ大学において開催された社会学（東アジア研究）関連のシンポジウム（組織者：同大学キム・ドンノ教授）に参加し、東アジア地域における社会学者やジェンダー研究者とのネットワーク構築に従事した。(平成 24 年) 3 月には、インディアン・ハビタットセンター（デリー）において、これまでの調査データをもとにした研究報告を、IIS（国際社会学機構）国際学会において行った。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）（総計 4 件）

１．速水奈名子、2009「ゴッフマン理論における個人化」、『社会学史研究』第 31 号、pp19-34、日本社会学史学会。

〔学会発表〕（計 1 件）（総計 6 件）

１．Nanako HAYAMI, 2009 ‘Research on Woman’s Bodily Regulation in Contemporary Japanese Society: Breakdown of the Traditional Communities and Growth of Consumer Culture,’ 7 May 2009, The 3th International Workshop on Communities in China and Japan, The University of Hong Kong, Hong Kong.

〔図書〕（計 1 件）（総計 2 件）

１．速水奈名子、2009「第十二章　現代社会における自己形成と身体―ゴッフマンのフレーム論をもとに」、『文化の社会学――メディア・記憶・身体』、pp244-262、文理閣。

６．研究組織

(1)研究代表者

速水奈名子（HAYAMI　NANAKO）

神戸大学・大学院人文学研究科・学術推進研究員

研究者番号：21730412